

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほぶりぼっけ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日	～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数)
			35
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日	～	令和8年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)
			13
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◆視覚支援を中心とした「わかる支援」	【見てわかる・自分でできる環境づくり、不安を減らし、主体性を引き出す支援】 ◎スケジュール・手順・ルールを視覚化し、見通しを持てる環境を整備している ◎言葉だけに頼らない支援により、理解しやすく安心して活動できる工夫	●個別に合わせたカスタマイズを行う(全員同じにしない) ●実際に使えているかの定期的な評価を行う ●成長に応じて段階的にフェードアウトを行う
2	◆専門職による根拠ある支援(アセスメント重視)	【経験だけでなく 根拠に基づく支援】 ◎心理士・言語聴覚士・保育士等による多角的なアセスメント ◎個別支援計画に反映し、根拠ある支援を実施	●ケース会議・ミニ研修の定期実施 ●支援方法の「見える化(マニュアル化)」 ●職員間での支援の統一を図る
3	◆運動や遊びを活かした発達支援	【遊びの中で自然に育つかや、楽しさをベースにした療育】 ◎ボルダリングやトランポリンを活用した前進運動 ◎姿勢保持・バランスへのアプローチ ◎楽しみながら取り組める環境づくり	●安全に配慮した範囲で感覚遊びを取り入れる ●「生活に活かせる運動」を重視する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◆情報共有が不十分になりやすく、支援の一貫性を保つことが難しい	●非常勤含め職員間の情報共有の機会が不足し、認識に差が出ている ●アセスメント内容が現場に十分に反映できていない	●定期的なミーティングのほか、短時間での情報伝達の時間を確保する ●記録様式の統一と引継ぎシートの活用を行う
2	◆同一時間帯でニーズが異なり、支援が平均化しやすくなる	●個別ニーズの幅が広く、人員配置や安全面での配慮が必要である ●放課後の利用時間帯、利用希望日が重なりニーズの異なる児童が混在してしまうことがある	●学年や課題別で利用日や時間をグループ分けする ●個別課題の強化を図る
3	◆第三者評価を受けていない	●支援内容について、また制度上の認識誤りがないかをチェックする「外部チェック」は受けているが、第三者評価としては評価を受けていない	●依頼先の検討を行う